

大田区立萩中小学校の学力向上を図るための全体計画

<本校の教育目標>

互いの人格を尊重し、規範意識をもった健全な社会人としての基礎を培うために、自ら学び判断して行動できる人間性豊かな児童の育成を目指して、次の目標をおく。

- ・みつめる子
- ・かんじる子
- ・つたえる子

- 教育基本法
- 学習指導要領
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標

- 学校や地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

<学校経営方針（学力向上にかかわる要点）>

子どもたちが、安全で安心して楽しく学習と生活ができる学校

- ・基礎、基本の確実な定着
- ・思考力、判断力、表現力の育成
- ・主体的な学習態度の育成

- 子どもの学習状況を的確に把握し、個を生かす指導に努め、基礎・基本を確実に定着させるための指導内容や指導方法等を工夫・改善する。
- 体験的な学習や問題解決的な学習などの多様な学習形態を取り入れ、実感的な理解を促進するとともに、主体的・対話的な学習活動を通して、学び方やものの考え方、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、学ぶことの楽しさや達成感を味わわせる。
- ステップ萩中、スピーチ大会、暗唱発表、萩中対話タイム、日常授業の言語活動等を通じて、伝える力の育成を図る。
- はぎなか自然園や学校水田など、学校の豊かな自然環境を生かした学習活動の充実を図る。
- ICT機器の積極的な活用により児童の学ぶ意欲を高め、分かる授業の実現を図る。
- 大田区学習効果測定、東京都児童の学力向上を図るための調査、全国学力・学習状況調査に加え「萩中学習確認テスト」の実施・分析・事後指導により、当該学年で身に付けるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力の確実な定着を図る。
- 補習指導を充実させるとともに「萩中小家庭学習のすすめ」等を通じて家庭学習の推進を図る。

各教科の指導の重点

- ・個別と集団を意識した指導方法の工夫
- ・ノーチャイムを活用した学習時間の弾力的な運用
- ・学年学級の枠をこえた学習形態の工夫
- ・習熟度別学習を算数科で実施
- ・指導と評価の一体化

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・自ら学び自己の生き方につながる課題発見のための環境設定
- ・TTやゲストティーチャーの活用
- ・地域を生かした単元の開発

<本校における確かな学力>

本校では、学習指導要領に示された各教科等の基礎・基本を定着させ、次の力を育成する。

問題解決能力

自らの課題を明確にし、より良い方法で問題の解決をしていこうとする力

表現力

自ら発見したことや考えたことについて、自分なりの方法で自信をもって表現する力

二つの力を支える基礎・基本の力

(狭義の基礎・基本)

読む、書く、計算する、話す、調べる、考える等の問題解決や表現活動を支える力

道徳教育の指導の重点

- ・道徳の全体計画に基づいた計画的・発展的な指導
- ・集団、地域社会とかわちる活動の推進
- ・「特別の教科 道徳」を要として「みんなで考え議論する授業」を工夫し、道徳性を養う。
- ・事前・事後の体験活動と関連をもたせた授業展開の工夫
- ・相手を思いやる気持ちや他の人を尊重する態度を養うために「道徳授業地区公開講座」を通し家庭・地域と連携した道徳教育の推進

特別活動の指導の重点

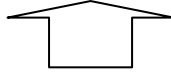
- ・集団の中で自他のかわちりを意識させる活動の推進
- ・活動において児童が自己決定、実践、振り返る活動を実践

進路指導の重点

- ・主体的な生き方を身に付けるための体験的な活動の積み重ね、学びが成立する指導の実践
- ・自分を見つめ、自己実現を積極的に支援するための保育園、中学校との連携、近隣高校との交流

生活指導の重点

- ・「萩中小10のやくそく」、「萩中小の学習」をもとに、基本的な生活習慣を身に付けるための指導の徹底
- ・児童理解、個別対応のための教育相談体制の構築、SCの活用、サポートルームとの連携
- ・生活指導連絡会での情報交換、共通理解による指導内容や指導方針の徹底、いじめ防止基本方針の策定



<学力向上に向けた授業改善の視点>

- ① 指導と評価の見直しを随時行い、授業改善を日常的に実施する。
- ② 主体的・対話的な学習を成立させるために、日常の授業実践を充実させる。

指導内容・指導方法の工夫

- ・各教科等の基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、教材研究に努め、子どもの学習意欲を高め、ねらいを明確にした指導、児童の側に立った「分かる授業」「楽しい授業」づくりを目指し、授業を常に工夫・改善する。
- ・各教科等において、児童が自ら考え、問題解決する場面を取り入れた授業を工夫する。
- ・表現力を高めるために体験的活動と問題解決学習を適切に組み合わせる。
- ・漢字の学習において、児童の自発性に基づいたチャレンジ学習（漢字ステップ）を実施する。
- ・算数科において少人数指導による習熟度別学習を実施する。習熟度別グループの構成は学年の実態に応じて適宜変更する。

授業研究、校内研修の工夫

- ・校内研究テーマを「伸ばそう 豊かな表現力」とし、「基礎・基本の徹底」と「表現力の向上（発信と受信）」を継承・発展させ、平成32年度完全実施の新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究を全教科で実施する。
- ・対話的な学習活動を充実させる手立てを明らかにした実践を積み重ねる。
 - ①事象との対話
 - ・学習意欲を高める活動や教材の工夫
 - ・見方、考え方の働きかけ方を明確にする
 - ・多様な方法で表現する力を養う
 - ②他者との対話（重点）
 - ・対話したいと思う場の設定
 - ・目的や視点の明確化
 - ③自己との対話
 - ・自己の成長に気付かせる
 - ・新たな問題の発見や実生活に生かそうとする態度を養う

評価の工夫

- ・全教科等の評価規準、評価方法を明確にした評価計画を作成して、実践の中で修正する。
- ・診断的評価を的確に行い、授業内容を工夫し、学習過程で形成的評価を積極的に取り入れる。
- ・振り返りカード、学習後の感想などを通して児童の自己評価能力を育む。
- ・通知表（あゆみ）、学習カルテ等を通じて、学習・生活等学校の様子を知らせ、児童の励みになるようにする。
- ・指導と評価の一体化が図れるよう、指導計画と児童の学習状況、評価の分析を行う。

教育課程編成上の工夫

- ・「朝学習」「朝読書」「はぎな対話タイム」の時間を設定し、全校一斉に計画的に実施する。
- ・1・2校時と3・4校時をノーチャイムにし学習活動と学習意欲の持続を図るとともに、弾力的な運用を図る。
- ・1学期は学習の基礎形成の時期とする。2学期は発展・表現の時期、3学期は定着・まとめの時期と位置付ける。
- ・3学期に萩中学習確認テストを実施し、学習内容の習得状況を確認する。

家庭や地域との連携・協働の工夫

- ・学習発表会（ステップ萩中）を日頃の学習の成果や総合的な学習の時間等の発表の場として実施する。
- ・授業に地域のゲストティーチャーを積極的に導入する。
- ・学校公開（6月・10月・2月）、道徳授業地区公開講座（10月）、体育・健康教育授業地区公開講座（2・3学期）を実施し、教育活動についての理解と評価を得る。
- ・保護者会（7月・9月・1月）において児童の学習の習得状況や授業改善について説明する。7月は大田区学習効果測定の結果の報告、9月は授業改善推進プランの説明、1月は当該学年の学習内容の習得状況を説明する。
- ・春季休業に1年間の復習と学習内容の確実な定着を図るための課題を出し、家庭と連携して学力の向上を図る。
- ・「萩中小学校家庭学習のすすめ」を作成・配布し、家庭での学習の習慣化を啓発し、家庭と連携し家庭学習を支援する。
- ・地域教育連絡協議会からの意見、授業や行事についてのアンケートを実施・活用する。
- ・スクールサポート萩中（学校支援地域本部）と連携し、図書室整備、ガーデニングなどの活動を通し教育環境を整える。

授業改善推進プランについて

この全体計画をもとに、学年ごとに全教科の授業改善推進プランを作成しました。この中の授業改善策は、各学年の前年度及び今年度1学期の学習状況をふまえ、年度内における達成を目指して考えたものです。単元によって重点的に取り上げるものもあれば、全授業において指導計画に設定するものもあります。児童の実態や学習状況を見ながら、定期的に見直しを図っていきたいと考えます。